

論文内容の要旨

報告番号		氏名	中村 広太
(和訳)	A comparison between plastic and metallic biliary stent placement in patients receiving preoperative neoadjuvant chemoradiotherapy for resectable pancreatic cancer 切除可能膵癌に対する術前化学放射線療法における胆道プラスチックステント及びメタルステントの比較		

論文内容の要旨

【背景】黄疸を有する切除不能悪性腫瘍例における胆道ドレナージに際しては、プラスチックステント(PS)に対するメタルステント(MS)の優越性が示されている。近年、切除を企図した膵癌に対する術前化学放射線療法(NACRT)は注目されているが、術前治療期間中における胆道ドレナージ法についての報告は少ない。今回我々は、NACRT中のMS及びPSの使用が術前治療、手術加療及び医療費に及ぼす影響について検討した。

【方法】2008-2016年にNACRTを施行した膵癌症例のうち、NACRT開始時におけるMS留置例をMS群(17例)、PS留置例をPS群(30例)と定義し、NACRT中のステント再介入率、NACRT施行期間、完遂率、手術成績、術後合併症、医療費について両群間で比較検討を行った。

【結果】年齢、性別、BMI、減黄前ビリルビン値、減黄期間、腫瘍径、Stage等の患者背景は、両群間に差を認めなかった。NACRT中の開存性は、PS群に比し有意にMS群で高かったが($P = 0.042$)、術前治療期間、治療完遂率及び、術中因子、術後合併症の発生率、病理学的局所癌遺残率、病理学的治療効果では両群間で有意差を認めなかった。また、NACRT中の胆道ドレナージ維持のための平均医療費は、再介入率、緊急入院日数を元に算出すると、MS群では一人当たり5641USD、PS群では5539USDであり、同等であった。

【結論】術前の完遂率、手術の遅延、周術期因子に及ぼす影響はMSとPSで差を認めなかった。一方で、MSは開存性に優れ、平均医療費は同等であり、NACRT期間中のドレナージ維持にはMSが有用であると考えられた。